

# 「リモートセンシング技術のユーザー最適型データ提供に関する要素技術の研究開発」概要

NICTが開発したリモートセンシング技術による雨量・地形等のデータは、高精度・高分解能であるがデータ量が膨大であるため、AI等を活用した圧縮・復元手法により通信トラフィック環境に応じてユーザーが期待する情報を提供可能なデータ圧縮・復元技術を確立し、災害時のような伝送容量の制約下においてもリアルタイムにデータ伝送が可能な要素技術を開発する。

## 【これまでの取組・現状】

- NICTでは多種多量な雨量・地形等の情報を取得可能なリモートセンシング技術を開発し、社会実装に向けた実証実験等の取組を行っている。
- これらリモートセンシングデータは、時間的及び空間的に分解能が高く、平時はもとより災害時等の限られた通信トラフィック環境下でのデータ伝送に課題を残している。

## 【目標・成果イメージ】

- リモートセンシングデータの活用が見込まれる機関等のユーザーが期待するデータを、AI等を用いたデータ圧縮・復元技術により3段階(※)の伝送容量内で適切に伝送するため技術を確立する。
- ※100Mbps(光回線)、10Mbps(携帯電話回線)、400kbps(衛星通信回線)の3段階

